ノコクズは生産時代へ

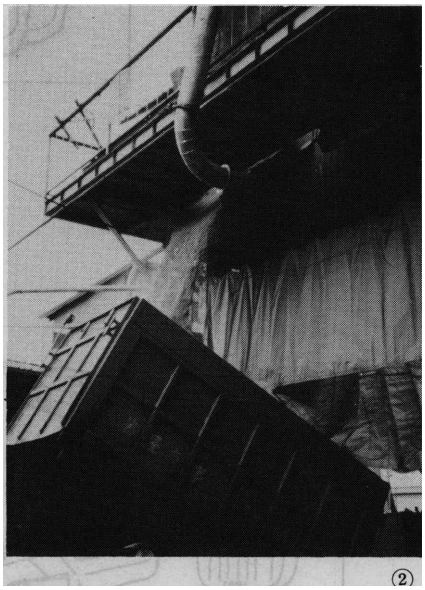
この製材所は,スギ・ヒノキ（間伐材も含む）を対象とした内陸型の製材工場です。オガ粉の原料には,この工場からでる背板と樹皮を用いています。オガ粉生産量は年間約 2万㎥です。

この工場に設置されているオガ粉マシーンは,刃物と粉砕機の組み合わせタイプ1台と,ノコタイプ1台の計 2台で,組み合わせタイプは 4㎜の目皿を用いて,オガ粉をノコタイプとほぼ同じ大きさに調整しています。

オガ粉 1㎥の価格は，キノコ培地用で 2,000円，敷わら用（バーク混み）で 1,800円となっており，工場サイロ下でオガ粉問屋に渡されています。**写真①** が，このオガ粉問屋の回収トラック（ 4トン車）で，オガ粉を 11㎥積みます。このオガ粉問屋は 4 ～ 5工場からオガ粉を集荷しています。

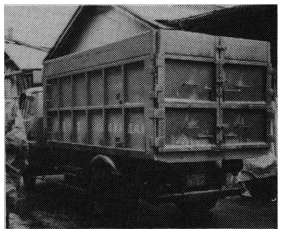
あるオガ粉製造工場をたずねて

前頁で説明しましたように，本道では本格的なオガ粉生産はまだ始まっておりません。そこで，オガ粉マシーンの普及台数が 2位である関東地方の一製材所におけるオガ粉生産の実態を調査しました。



②

背板・樹皮からオガ粉を



①

生産されたオガ粉は，風送によっていったんサイロにためられます。ためられたオガ粉は，**写真②** に示すように,シュートからオガ粉輸送車に積みこまれます。

工場関係者の話では,各種オガ粉マシーンの評価は,「オガ粉はこまかいが，なかにあらいものがまざっている」，「性能はすばらしいが・メンテナンスが大変だ」，「原料の形はえらばないが，オガ粉があらい」などでした。 1日当たりの処理量や，製品オガ粉の用途などによってえらぶことが必要だと思います。

「何故チップにしないで,オガ粉にして販売するのか？」という質問には,「チップ工場が遠い。買いたたかれる。」等の理由をあげ，「現状ではチップ価格とオガ粉価格はほぼ同等だが，オガ粉の方が確実にさばけるので， 5年前からオガ粉にして売っている。」とのことでした。しかし，オガ粉価格も各種のオガ粉マシーンの普及により〝ダブつき〟ぎみの傾向とのことであり，新しい用途の開発が必要だとおっしゃっていました。

（林産試験場　遠藤　　展）